

# 茨木市文化振興ビジョン策定のためのWS ～茨木高校編～

## 01 開催概要

多くの市民が茨木市の文化について考える機会を提供し、創発的なやり取りの中から茨木市らしい文化を言葉にすること、「みんなの“楽しい”が見つかる文化のまちづくり」に向けた協働のきっかけづくり（参画）を行い、ビジョンの中に盛り込むことを目的としたワークショップを行いました。

このレターでは、茨木高校で下記のとおり実施されたワークショップの概要についてお知らせいたします。

日 時：2022年10月24日（月）  
12:55～14:00  
会 場：茨木高校  
参加者数：36名

▼高校生と一緒に茨木市の文化について考えました



## 03 茨木市の文化を活用するアイデア

前のステップで挙げてきた茨木市の文化をもっと多くの人に知ってもらったり、楽しんでもらうための「アイデア」について、議論を進めていきました。

グループにはグループ人数よりも1枚少ない付箋（青）が配られ、皆で議論し、合意しながらどうやって活用・発信するかアイデアを抽出します。

その一方で、グループで合意した事項「以外」に生徒一人ひとりがやったほうが良いと考える個別のアイデア（赤）も出してもらっています。

青い付箋  
「皆で合意した  
アイデア」

赤い付箋  
「生徒一人ひとりの  
個別アイデア」

そのうえで、「ビンゴ！（同じ意見）」「ユニーク！（唯一の意見）」と声掛けしながら一枚の模造紙に集めます。みんなで決めた、共通する意見も大事ですが、ほかの誰も思いつかなかった意見もとても大事です。その両方を大切に可視化していきました。

▼立ち上がり付箋を分類するグループ

▼自身で付箋を分類してもらいました



## 02 「文化」と聞いて何を思い浮かべるか（→「茨木市の文化」とは？）

茨木高校には、茨木市外に住んでいる生徒も多く含まれています。まずはシンプルに「文化」と聞いたときに何を思い浮かべるか、について議論しました。

ここでは「美術」「行事（お祭り、儀式、冠婚葬祭）」「音楽（J-pop）」「言葉（方言）」「歴史」「文学、漫画、アニメ」「自然（山、四季）」といった意見が出ました。

次に、「茨木市の文化」について聞いてみたところ、「商店街」「茨フェス」「寒天」「竜王みそ」「茨木っ子体操」「北部の自然」「茨木高校の歴史」「茨木高校音楽会」といった意見が出ました。

市の特色や高校生らしい感性が反映されている意見です。

▼最初は遠慮がちでしたが、次第に意見が出てきます

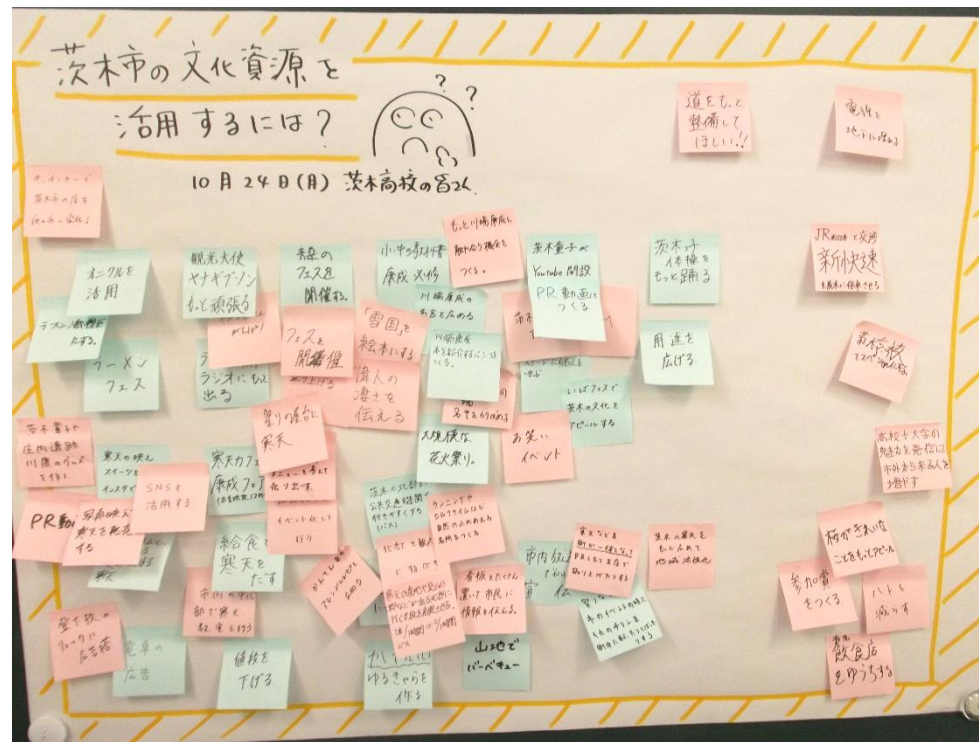


## 04 振り返り（感じたこと・考えたこと）

全体を振り返って感じたこと・考えたことをコメントで残してもらいました。その一部をご紹介します。

- ・付箋を貼ってアイデアが広がっていく感じがとても楽しかったです。みんなの意見から知らなかったことも知れてうれしかったです。
- ・ある一つの言葉をとっても人によって連想するイメージは大きく違って面白かった。
- ・茨木市にはたくさん魅力があることを改めて知れました。
- ・茨木独自のものはあるので、それをもっと有名にできたらいいと思う。
- ・すでにあるものも十分良いけど手を加えたらもっと良くなると思いました。
- ・文化資源を活用するにはまずそれを知って理解することが大切。
- ・茨木市にももっといろいろな文化があってそれを宣伝する方法はたくさんあるのだなと思った。
- ・自分が今までどのようにして文化の情報を得ていたのか考えるきっかけとなりました。
- ・茨木市には華やかさが足りないと思った。
- ・茨木の文化資源を活用するためにできることの中に個人的にできることがいくつかあると思った。
- ・同じ人間なのに。出てくる意見は全く違う、面白い。
- ・茨木市はまだまだ発展できるし、もっと隠れた魅力を発信すべきだと思った。
- ・一人一人が考えることが大切だと思った。
- ・茨木市の文化やそれをアピールするためのアイデアがこんなにもあるとは思わなかった。
- ・のびしろがあるぞ、茨木市。

▼茨木高校の生徒の皆さんの、文化資源活用アイデアをまとめた模造紙



付箋がいくつも集まったのは「祭りの屋台に寒天」、「寒天を給食に出す」、「寒天を使ったオリジナルメニューを開発する」といった茨木市特産の寒天を活用するアイデアです。

他には、「音楽の祭りやフェスを開催する」といったイベントへの提案、「SNSを活用する」「電車で広告を出す」といった発信方法に対する意見のほか、「川端康成の明言を広める」「小中学校の教科書に康成必修」「もっと川端康成の作品に触れ合う機会を」という川端康成を学生や若者の目に触れる機会を作ってほしいという意見が出てきました。



# 茨木市文化振興ビジョン策定のためのWS ～高校生（福井高校）編～

## 01 開催概要

多くの市民が茨木市の文化について考える機会を提供し、創発的なやり取りの中から茨木らしい文化を言葉にすること、「みんなの“楽しい”が見つかる文化のまちづくり」に向けた協働のきっかけづくり（参画）を行い、ビジョンの中に盛り込むことを目的としたワークショップを行いました。

このレターでは、高校生（福井高校）を対象に下記のとおり実施されたワークショップの概要についてお知らせいたします。

日時：2023年1月18日（水）  
8:40～10:30  
会場：福井高校  
参加者数：16名

▼多様なルーツを持った外国人生徒の皆さんが対話に参加しました。



## 02 福井高校の生徒の属性

参加した高校生16名のうち、茨木市内に在住している生徒はゼロで、大阪府内が13名（大阪市9名、高槻市3名、吹田市1名）でした（遅刻等で不明3名）。

通学手段は「自転車」が最も多く8-9名、「JR」が7名、「阪急」が2名、「バス」が3名でした（「併用」「組み合わせ」もあるため、合計は16名を超える）。

10月に実施した茨木高校でのワークショップに参加いただいた高校生と同様、居住者ではなく通学者であるため、普段の生活の中で「茨木市の文化」については、ほとんど触れる機会がないことが前提としてわかります。

▼模造紙と付箋を使いながら、意見交換を行います。



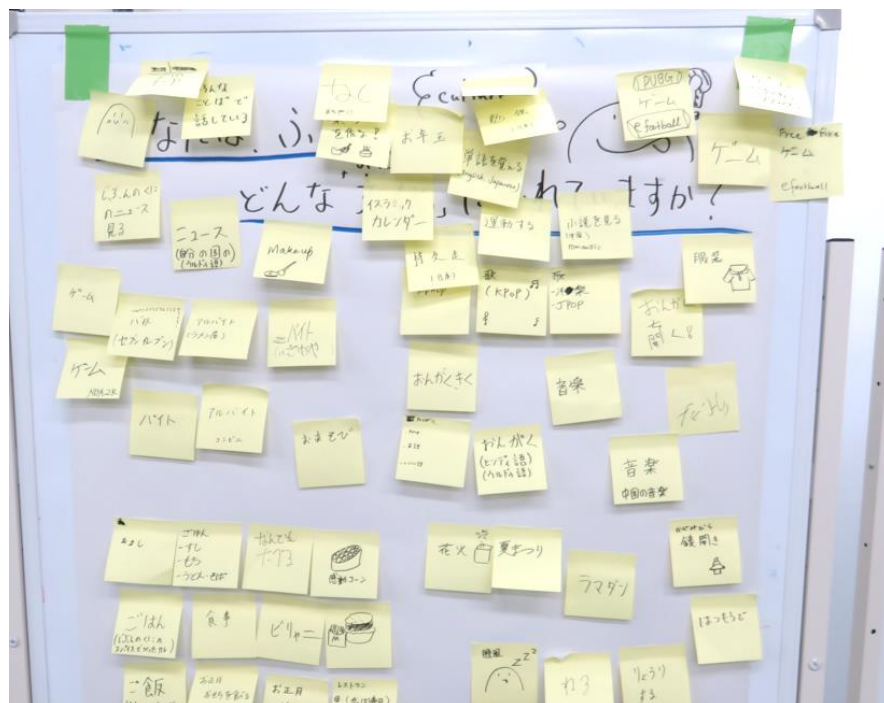
## 03 高校生はどんな文化活動をしている？

まず、福井高校の皆さんに対して「どんな文化活動をしているか」を聞きました。

多かった意見としては、「音楽（K-pop、ヒップホップ、ヒンディー語の音楽等）を聞く」、「ドラマ・映画（中国、インド、パキスタン等）を見る」「食事（おせち料理、ビリヤニ、自分の国のスパイスで作ったカレー等）を取る」「自分の国のニュースを見る」などがありました。

そのほか、「祈る」「ラマダン」「メイクアップ」「アルバイト」「料理をする」といった意見などもありました。

▼高校生たちが行っている文化活動の分類



## 04 茨木市の文化に高校生が触れるためのアイデア

高校生が茨木市の文化を活用したり、触れたりするためのアイデアを最後に集めました。

大きな分類では「お祭りを開く」、「いろいろな国の人が集まって自分の国のおいしい食べ物を作る」「SNS、ニュースで発信する」「無料のダンス教室」といったものから、「川端康成の本を読む」、「茨木市の文化を調べる」、「茨木市に住む」といったかなり主体的なアクションも上がってきました。

具体的な意見の内容は下表の通りです。

▼高校生が文化活用をするためのアイデアの分類と内容

分類	内容
イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>お祭りを開く</li> <li>多くの人と一緒にゲームをする</li> <li>自然が多いのでマラソン（持久走）をする</li> <li>中国語/英語等でスピーチ大会をする</li> </ul>
広報・発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNSで発信する</li> <li>ニュースで茨木市の文化を取り上げる</li> <li>ポスター写真を高校生の目に入る所に貼る</li> </ul>
食	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな国の人が集まってごはんを作る</li> <li>茨木市でご飯を食べる</li> <li>料理教室を開く</li> </ul>
体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>川端康成の本を読む</li> <li>茨木市に住む</li> <li>茨木市のことを調べる</li> <li>歌を歌う</li> <li>茨木モスクを訪ねる</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>無料クーポン付きのチラシを配る</li> <li>買い物をする</li> </ul>

## 05 振り返り（感じたこと・考えたこと）

約90分のワークを通じて感じたこと、考えたことを付箋に記載してもらいました。多様なバックグラウンドを持つ生徒たちと、普段正面から考えることの少ない「文化」に関する対話するプロセスを通じて、同じ「高校生」でも多様な考えや経験を持っていることがわかりました。

▼ワークショップを通じて感じたこと・考えたこと（抜粋）

- ・茨木市の文化のことが分かりました。みんなのアイデアも分かりました。
- ・遊びのような授業で楽しんで知識を受け取るのはいい。
- ・大きな公園が欲しい。
- ・茨木市の宣伝が必要。
- ・茨木市の文化をもっと触れるための色々なアイデアを聞きました。
- ・あたらしいことが分かりました。
- ・茨木に新しい建物ができることを聞いていつか行きたい。
- ・学校は茨木市だけどもあんまり茨木市の文化が分からないけど今日の授業を受けて良かったです
- ・文化はとてすごかったと思います。先生来てくれてありがとうございます。





# 茨木市文化振興ビジョン策定のためのWS ～大学生編～

## 01 開催概要

多くの市民が茨木市の文化について考える機会を提供し、創発的なやり取りの中から茨木市らしい文化を言葉にすること、「みんなの“楽しい”が見つかる文化のまちづくり」に向けた協働のきっかけづくり（参画）を行い、ビジョンの中に盛り込むことを目的としたワークショップを行いました。

このレターでは、大学生を対象に下記のとおり実施されたワークショップの概要についてお知らせいたします。

日時：2022年12月2日（金）  
14:00～15:30  
会場：追手門学院大学総持寺キャンパス  
参加者数：8名

▼地域創造学部の皆さんに集まって頂きました



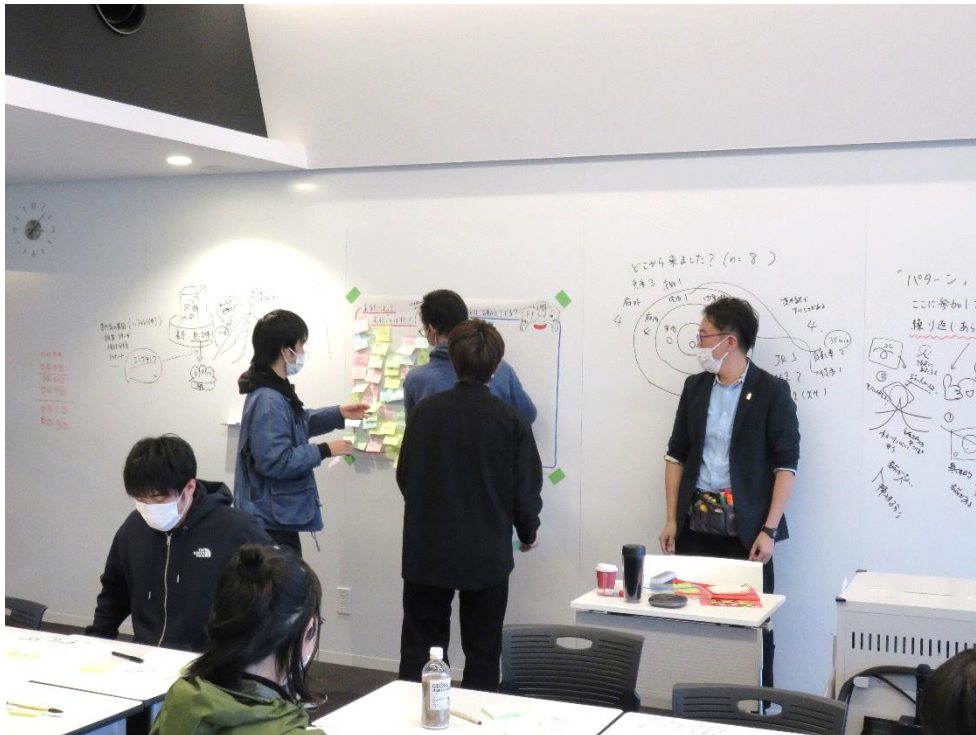
## 03 大学生はどんな文化活動をしている？

次に、追手門学院大学の大学生の皆さんに対して「どんな文化活動をしているか」を聞きました。

多かった意見としては、「食」にまつわるもの（料理を食べる、母のご飯を食べる）、美術館・博物館に行く、人とのコミュニケーション（会話、人の話を聞く、人と人を繋げる）、音楽鑑賞や映画鑑賞などが挙げられました。

そのほか、行事・イベントへの参加、書道や音楽活動、大学の授業と関連したフィールドワーク・ワークショップへの参加といった意見のほか「『生きる』こと自体が文化」という意見もありました。

▼付箋を書いて似ている意見のグループ分けをしています



## 02 「文化」と聞いて何を思い浮かべるか（→「茨木市の文化」とは？）

参加した学生8名のうち、市内在住はゼロで、大阪府内が4名（吹田市・高槻市等）、大阪府外が4名（京都・兵庫）の皆さんです。「文化」と聞いたときに何を思い浮かべるか、について質問しました。

「歴史」「美術」「文化財」「音楽」「方言」といった他の属性でも見られた視点のほか、ユニークなものでは「何もしなければ忘れてしまうもの」「常に変化するもの」「人が作るもの（AIなどには難しい）」などがありました。

そのなかで、「茨木市の文化」については、ほとんど触れることがなく、「通学」はしているけれど、市内での文化との接触が少ないことがわかりました。

▼現行ビジョン表紙の「茨木童子」でストーリーづくり



## 04 茨木市の文化を大学生がもっと活用するアイデア

大学生が茨木市の文化を活用し、触れるためのアイデアを最後に集めました。

大きな分類では「まち歩きを促進する」「文化施設を学生が集まる駅近くに整備する」「授業に取り入れて興味関心を持ってもらう」「文化イベントを実施する」「食に関する取組（地場産品の利用）」「大学生と地域との交流促進」「（イベント等の）広報手段の拡充」といった意見が出ました。

具体的な意見の内容は下表の通りです。

▼大学生が文化活用をするためのアイデアの分類と内容

分類	内容
まち歩き	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺跡散策</li> <li>乗り捨て自転車（サイクルポート）の整備</li> <li>大学～駅のウォーキングコースを複数作る</li> </ul>
施設整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅周辺に文化施設をたてる</li> <li>学生が気軽に文化について質問ができ、フィールドワークの拠点となる統合型施設</li> </ul>
体験/研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学生が文化に触れる/実演する</li> <li>大学の授業の中に取り入れる</li> <li>（授業で）他都市の文化と比較する</li> </ul>
イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>茨木市中心のイベントを行う</li> <li>ライブを開催する</li> <li>スポーツ大会をする</li> </ul>
食	<ul style="list-style-type: none"> <li>食堂メニューに茨木市産の材料を使う</li> </ul>
交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝える、聞く</li> <li>広場を使って交流する</li> <li>大学内の人通りの多い場所で交流する</li> </ul>
広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学経由で文化関連イベントの広報</li> <li>掲示板を活用する</li> </ul>

## 05 振り返り（感じたこと・考えたこと）

約90分のワークを通じて感じたこと、考えたことを付箋に記載してもらいました。普段正面から考えることの少ない「文化」に関する対話のプロセスを通じて、同じ大学生でも様々な意見があること、茨木市の文化について触れる機会が実は少ないことなど、多くの気づきが得られたようです。

▼ワークショップを通じて感じたこと・考えたこと

- ・文化活動の具体的なことから茨木市と共通している事柄のようなものを探しながら考えていました。
- ・抽象的ゆえに十人十色。茨木市民が0の中で知っている茨木市だけでたくさんの案ができておもしろかった。
- ・“文化”とは？というところから実際に大学生に活用してもらうには？という話までいろんな意見を交わすことができ面白かったですが、一人ぐらひは茨木に詳しい人がいてもよかったのでは…！
- ・実演する場という意見がよかった。文化の必要性について感じられた。
- ・生活＝文化で、生活を豊かにしていくという行動が文化になることを認識してから、文化についてようやく考えられると思った。
- ・多くの人が共通して“つながり”や“つないでいくこと”をテーマにしていた。文化を下地にしたイベント、施設もこれをベースにすると求めているものに近づくのではないかと思った。
- ・自分では思いつかなかった考えや感じ方を知ることができた
- ・人によって考え方が違う「文化」だからこそ一人ではなく複数の人と考えるからこそ「文化」が形になると思いました。



# 茨木市文化振興ビジョン策定のためのWS ～子育て世代編～

## 01 開催概要

多くの市民が茨木市の文化について考える機会を提供し、創発的なやり取りの中から茨木市らしい文化を言葉にすること、「みんなの“楽しい”が見つかる文化のまちづくり」に向けた協働のきっかけづくり（参画）を行い、ビジョンの中に盛り込むことを目的としたワークショップを行いました。

このレターでは、子育て世代を対象に下記のとおり実施されたワークショップの概要についてお知らせいたします。

日時：2022年12月1日（木）  
10:30～12:00  
会場：ローズWAM  
参加者数：13名

▼三木さんのピアノ演奏で親子一緒に楽しめます



## 02 「文化」と聞いて何を思い浮かべるか（→「茨木市の文化」とは？）

小さなお子さんをお持ちの子育て世代の皆さんは、「文化」と聞いたときに何を思い浮かべるか、について質問しました。

「ひともの生きざま」「親から子に伝えるもの」といったならではの視点のほか「子供向けのイベント」「音楽」「美術」といったものがあがりました。

そのなかで、「茨木市の文化」については、「茨木童子」「茨木神社」「川端康成」「茨木城」「竜王みそ」「茨木フェス」といった伝承・施設・イベントに関するもののほか「モノレール、阪急、JR、電車のお出かけができる文化」といった意見も出ました。地域の特性が意見によく反映されていることがわかります。

▼お子さんにも付箋を貼るのを手伝っていただきました。



## 03 子どもと一緒にどんな文化に触れている？

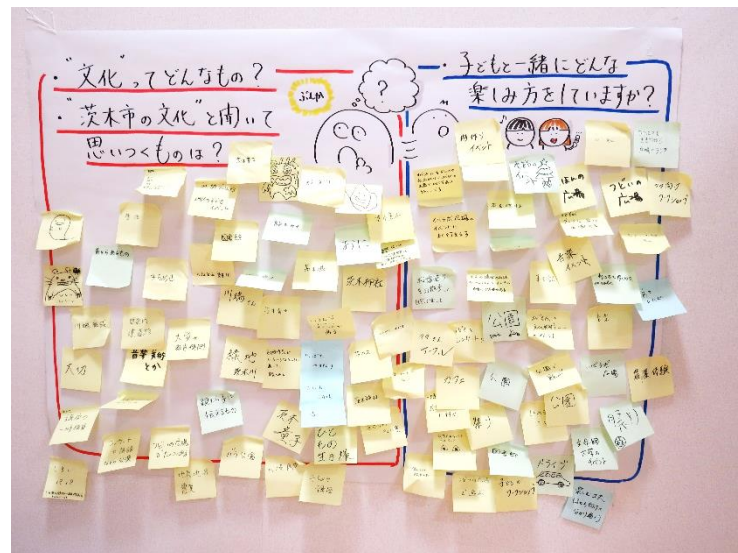
次に、お子さんと一緒にどのような文化に触れているか、楽しんでいるかについてお聞きしました。

多かった意見としては、「本にまつわるもの（図書館・本を読む・借りてきた絵本を読む）」、「公園・広場で遊ぶ（つどいの広場、えほんの広場、イバラボ広場など）」、「ママさんサークル」「子どもの参加できるワークショップイベント」などが挙げられました。

そのほか、農業体験、祭り、コンサート、カフェ、ドライブといった様々な活動の中で文化に触れているというご意見がありました。

また、「一時保育にお子さんを預けて、お茶のお稽古に行く」「大人や障害のある方やいろいろな人と子どもと一緒に活動する（機会を作る）」といったような、子どもと少し離れたところで大人・親が文化に触れたり、子育て世代以外の他の人と触れ合う機会を作っている意識的に作っている方もいらっしゃいました。

▼こんなにたくさんの付箋（皆様のご意見）が集まりました



## 04 茨木市の文化を子育て世代がもっと活用するアイデア

前のステップで挙げてきた茨木市の文化をもっと多くの人に（特に子育て世代の方々に）活用していただくためのアイデアを最後に集めました。

▼アイデアやご意見の付箋です。似た意見は近くに集まっています。



「平日の集まりだけでなく、土日のイベントや利用できるサービスを増やしてほしい」「発信をわかりやすく（インターネット、SNSや、アプリの活用）」、「飲食スペースやおむつ替えスペースの明記」「ママたちの交流の機会を増やす」「子ども預かりサービスの充実」「茨木にゆかりのある作家さんの子ども向けのワークショップの開催」などが挙げられました。

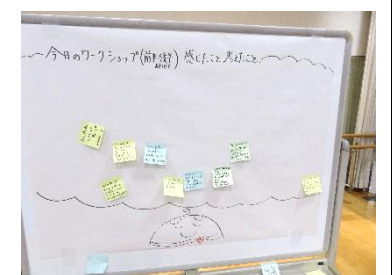
## 05 振り返り（感じたこと・考えたこと）

楽しくお子さんも一緒に考えて・手伝っていただいた、あつという間の1時間半でした。

参加頂いた子育て世代の皆さんにワークショップ全体を振り返って感じたこと・考えたことをコメントで残してもらいました。その一部をご紹介します。

- ・意見を聞く場を持ってもらえてうれしいです。
- ・こうして市民の声を聞いていただけるのはうれしいです。
- ・ピアノと絵本も素晴らしかったです。
- ・ありがとうございました。
- ・なかなか親同士で話す機会が無いので良かったです。
- ・絵本と音楽が一緒になるとより想像力が豊かに働くと感じた。
- ・ママたちはたくさん要望を持っていると思います。ぜひ反映してください。
- ・茨木市の今後が楽しみになった。
- ・自分たち世代の意見を聞いてくれてうれしく思った。他の人の意見になるほどと思った。
- ・色んな人がいて、色んな考えがあるのが「地域の集まり」なのだと感じた。
- ・子ども達も歌あそび楽しんでいました。記入時にスタッフの方が双子の一人を抱っこしてくださり、本当に助かりました。こんな素敵な支援が今後も増えたらうれしいです。

▼ふりかえりの付箋





# 文化振興ビジョン 各理念・取組ごとの総括（案）

## 理念1 市民との協働による文化のまちづくり

取組番号／取組名		達成度	必要性	方向性	取組総括				
取組の方向性									
1-1	市民の自発的な文化芸術活動に対する支援	やや高い	高い	拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の達成度については、各種文化事業の開催を通じて、市民の文化芸術活動の発表の場を提供しているほか、IBALAB@広場では活動の「場」として市民の文化振興への参加の機会創出している。また、各小学校区公民館等での文化芸術に係る講座の開設や公民館区事業実施委員会等が開催する文化展の補助など、地域コミュニティでの文化芸術活動を促進しました。文化芸術団体や観光協会をはじめとした民間団体の活動の場を提供するための補助金を通じて、文化芸術活動の支援をしていますが、コロナ禍で文化芸術の担い手や集客が減少していることを踏まえ、「やや高い」と判断する。</li> <li>取組の必要性については、民間のアイデアや連携を活かした取組が実施されているが、一定規模のイベントを継続するためには民間団体の財政的負担が大きいこともあり、文化振興財団の実施する文化芸術振興制度による助言や補助制度のさらなる活用が期待されることから、「高い」と判断する。</li> <li>取組の方向性は、活動の「場」の整備としては、暫定広場であるIBALAB@広場を市民活動等のフィールドとして提供しており、おにクル開館後はオープンスペースや広場などで、さまざまな「参加」の機会を創出し続けます。加えて、都市の魅力を高めるため、関係課主催イベント等を中心に、公園の利活用も検討が進められており、市内の様々な場を活用した文化事業の開催が期待されることから、「拡充」とする。</li> </ul>				
1-2	市民と文化芸術をつなぐ人材の育成					やや低い	やや高い	拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の達成度については、補助金の交付事業を通じて、新たなアーティストの発掘が一定出来たが、人材の育成の推進までには至っていないため、「やや低い」と判断する。</li> <li>取組の必要性・方向性については、人材の発掘・育成については、おにクル開館に向けて、市民会議などの仕組みを通じて推進していく必要があり、必要性は「やや高い」、方向性は「拡充」とする。</li> </ul>
1-3	市内文化芸術団体間の連携の強化								
1-4	産学官の連携による文化芸術活動の活性化	高い	やや高い	拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の達成度については茨木市文化芸術市民会議やHUB IBARAKI ART PROJECTは事業者・大学・市が語る「場」となっており、連携して事業を実施しているほか、文化振興財団、茨木市、立命館大学の3者で構成された「いばらき×立命館芸術振興プロジェクト」では新たな文化事業の試行をしています。また、中心市街地の活性化に向けて、多様な主体とともにまちの将来像を描く取組を進めていることから、「高い」と判断する。</li> <li>取組の必要性については、市内大学とはプラットフォーム会議などにより、情報交換を進めているところですが、地域との連携をより一層強化する必要があるほか、長期的な行政課題について、大学と連携して研究・検討を進める必要があるため、「やや高い」と判断する。</li> <li>取組の方向性としては、市・文化振興財団・おにクル指定管理者との他分野も含めたさらなる連携を図り、繋がりを強化することを目指すため、「拡充」とする。</li> </ul>				
市民の自発的な文化芸術活動に対する支援									

理念番号／理念名		達成度	必要性	方向性	理念総括
理念					
1	市民との協働による文化のまちづくり	やや高い	高い	拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>理念の達成度については、各種文化事業を通じて、市民の文化芸術活動の発表の場を提供するとともに、補助金の交付を通じて、文化芸術活動の支援を実施した。一方、人材の育成や文化芸術団体間の連携による企画・広報の協力については実現に至っていないことから、「やや高い」と判断する。</li> <li>理念の必要性については、文化芸術団体への助言や補助制度のさらなる活用が求められているほか、おにクル開館に向けて団体間さらなる連携・協働の取組を進める必要があることから、「高い」と判断する。</li> <li>理念の方向性については、新たな文化芸術活動の場として、IBALAB@広場や公園などが期待されるほか、市・文化振興財団・おにクル指定管理者等を中心とした連携・協働・交流の基盤づくりを進める必要があることから、「拡充」とする。</li> </ul>
市民との協働による文化のまちづくり					

茨木市の文化は、市民一人ひとりが自由な文化芸術活動に取り組み、そうした活動が集まり、積み重ねられることによって、形成されていきます。茨木市は、文化芸術事業において市民との協働を推進していくとともに、市民が自発的に取り組む文化芸術活動を積極的にサポートし、市民一人ひとりの多様性・自主性を尊重しながら、市民、文化芸術団体、事業者や教育機関と行政が一体となって、文化の活性化を図ります。

## 文化振興ビジョン 各理念・取組ごとの総括（案）

### 理念2 文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり

取組番号／取組名		達成度	必要性	方向性	取組総括
取組の方向性					
2-1	誰もが文化芸術とつながる環境づくり	やや低い	高い	拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の達成度については、市立ギャラリーでは様々な展示が開催されているほか、市内各所で様々な文化イベントを実施しています。また、親子で楽しめる子育て世代向けのWSや障害者の有無に関わらず文化芸術につながる取組などを実施していますが、外国人などを対象とした事業には取り組んでいないことから「やや低い」と判断する。</li> <li>取組の必要性・方向性については、文化芸術基本法や障害者による文化芸術活動の推進に関する法律が制定され、誰もが等しく文化芸術にふれる環境整備が基本理念に位置づけられたほか、市内外国人の増加に伴い、多文化共生の推進が求められていることから、必要性は「高い」、方向性は「拡充」とする。</li> </ul>
2-2	いつでも・どこでも文化芸術にふれられる環境づくり				
<p>茨木市においては、様々な文化芸術事業が開催され、市内の文化芸術施設等では多くの市民が文化芸術活動を行っています。</p> <p>その一方で、市民から「利用したい文化芸術施設が少ない」といった課題も指摘されています。</p> <p>今後、文化芸術施設等における、多彩な文化芸術事業の開催を促進するとともに、市民会館の代替施設や、既存施設の有効活用・再整備を含め、文化芸術活動に利用しやすい施設のあり方を検討し、計画的に整備を進めることで、どこでも文化芸術に取り組める環境を整えます。また、市内の文化芸術施設の機能や設備、利用方法等に関して、積極的に周知・広報を行い、多くの市民の利用を促進していきます。</p> <p>さらに、茨木らしい景観と新しい魅力を発信するよう、公共施設の整備に当たっては、歴史や自然環境との調和、芸術性豊かな施設の計画など、その場の環境にふさわしい整備を進めていきます。</p>		高い	高い	拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の達成度については、平成27年12月の市民会館閉館後、立命館いばらきフューチャープラザグランドホールの補助を実施し、市内の文化施設の利用を促進しました。また、1,200席の大ホールを有したおにクルの開館に向けては、文化芸術団体からヒアリングした結果を踏まえて整備を進めていることから「高い」と判断する。</li> <li>取組の必要性・方向性については、福祉文化会館閉館に伴い、他の施設の利用を案内する必要があります。また、おにクルの開館に向けて、文化芸術活動に利用しやすい環境を整える必要があるとともに、市民に向けて積極的な周知・広報を実施する必要があるため、必要性は「高い」、方向性は「拡充」とする。</li> </ul>

理念番号／理念名		達成度	必要性	方向性	理念総括
理念					
2	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり	高い	高い	拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>理念の達成度については、ソフト面では様々な展示や文化イベントを実施しました。また、子育て世代・障害者・高齢者を対象とした取組を実施していますが、外国人を対象とした事業は取り組んでいません。ハード面では、市民会館の閉館に伴い、施設利用補助をしたほか、おにクル開館に向けては多くの芸術団体の意見を取り入れたことから、「高い」と判断する。</li> <li>理念の必要性・方向性については、法律の制定や市内外国人の増加に伴い、これまで以上に誰もが誰もが等しく文化芸術にふれる環境整備が求められています。また、おにクル開館、福祉文化会館閉館に伴い、市民の文化芸術活動に利用できる施設の積極的な周知・広報が必要であることから、必要性は「高い」、方向性は「拡充」とする。</li> </ul>
<p>市民の一人ひとりが文化を創造し、育成していく文化芸術活動の主役であることを踏まえて、すべての市民が「いつでも・どこでも・だれでも」文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくりを積極的に進めていきます。</p> <p>ソフト面では、文化芸術活動に現在取り組んでいる人だけでなく、関心はあってもなかなか自分で取り組むことのできない人も含めて、気軽に文化芸術活動に参加できる機会・きっかけを作り、よりたくさんの市民が文化芸術活動に参加できるよう促します。</p> <p>ハード面では、市民が文化芸術活動を行う拠点となる文化芸術施設の計画的な整備を進めるとともに、道路・公園などの都市基盤整備に当たっても、地域の歴史や景観との調和に配慮します。</p>					



## 文化振興ビジョン 各理念・取組ごとの総括（案）

### 理念3 未来へ向けた文化芸術の担い手の育成

取組番号／取組名		達成度	必要性	方向性	取組総括
取組の方向性					
3-1	文化芸術の教育現場における活用	やや高い	高い	拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の達成度については、小学生対象の芸術文化講座について、対象を未就学児と保護者にも拡大するほか、放課後子ども教室と連携した事業を実施するなど、若い世代が芸術文化にふれる場をつくりました。また、公募事業の中では1,000件を超える応募があるものもあり、広くに事業参加の機会を創出しており、さらに直近では映像芸術を題材としたワークショップをスタートするなど新しい分野を扱った事業も開始しています。「対話型鑑賞」を学校の授業に応用した「対話型鑑賞プログラム」を実施するなど、学校教育との連携についても取組が始まっているため、達成度は「やや高い」と判断する。</li> <li>取組の必要性については、学校教育との連携を図りながら子どもたちが文化芸術活動にふれる機会・きっかけづくりが求められている。また、富士正晴氏やその記念館の認知度は、子どもに限らず低いこともあり、周知に向けた取り組みの検討が必要であることから、「高い」と判断する。</li> <li>取組の方向性については、引き続き子どもたちの能動的な文化芸術活動の支援に努めつつ、教育機関と連携しながら伝統文化や茨木市をルーツとした偉人について知る機会の充実に努める必要があるため、「拡充」とする。</li> </ul>
3-2	文化芸術の担い手の育成				
<p>文化芸術には、子どもたちの感性を育み、心を豊かにするとともに、他者とのコミュニケーションを活発にするといった働きがあります。そのため、茨木市では市内小学校・中学校との連携を図りつつ、子どもたちが川端康成文学館や富士正晴記念館で作品に接したり、郡山宿本陣（樺の本陣）や文化財資料館などの文化財を見学したり、地域のお祭りで和太鼓や盆踊りなどの伝統文化を体験したりすることにより、文化芸術をより身近なものとして感じ、理解を進めることができるよう取り組んでいきます。</p> <p>こうした取組に加えて、市内外の文化芸術団体とも連携しながら、学校教育の現場で教育活動を通じて、子どもたちが文化芸術にふれる機会・きっかけづくりの拡充を図ります。また、市内の小学校・中学校・高等学校・大学とも連携し、身近な同世代の活動を知る・見る機会を子どもたちに提供していきます。</p> <p>なお、小・中学生からは、「自分で文化的な活動をしたり、芸術作品をつくりたい」といった声が多く、実践したい分野として音楽、アニメーション、映画、美術、写真、演劇・舞踏・ダンスなどが挙げられました。</p> <p>こうした子どもたちの声を踏まえて、茨木市では子どもたちの能動的な文化芸術活動を支援していきます。</p>					
<p>これまで継承してきた文化芸術に限らず、現代において生まれた多様性のある文化芸術を含め、芸術家はその才能を発揮できる環境をつくり、市内の文化芸術の振興を図るとともに、市外からも多くの芸術家が集まるまちを目指します。</p> <p>そのために、若い芸術家が日頃の活動を発表できる機会を設け、次世代を担う若手芸術家の活躍の場を広げるとともに、新しく先鋭的な文化芸術についても市民の理解や共感を得られるよう発表の機会の増大を促し、我がまちから優れた芸術家を輩出することを目指します。</p>					

理念番号／理念名		達成度	必要性	方向性	理念総括
理念					
3	未来へ向けた文化芸術の担い手の育成	やや高い	高い	拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>理念の達成度については、事業やアートプロジェクト等の開始により、子どもたちをはじめとした若い世代が芸術文化に触れる場の整備とともに若手芸術家の発表の機会の創出がされています。一方、教育機関と連携した事業については、取り組めていないことから、「やや高い」と判断します。</li> <li>理念の必要性については、学校教育との連携を図りながら子どもたちにより身近に文化芸術にふれる取組が必要です。また、若手芸術家の活躍の場の充実も求められているため、「高い」と判断します。</li> <li>理念の方向性については、子どもたちの文化芸術活動にふれる場の提供や若手芸術家の発表の場を拡充し、引き続き未来に向かって文化の芽を育んでいく必要があることから、「拡充」とします。</li> </ul>
<p>これまで継承してきた文化芸術活動に、子どもたちや若い世代が関心を持ち参画していくために、広く啓発に努めるとともに、学校などの教育現場においても、文化芸術活動の充実に取り組んでいきます。</p> <p>また、未来に向かって文化の芽を育んでいくために、文化芸術の担い手を育成し、我がまちから優れた芸術家を輩出することを目指します。</p>					

# 文化振興ビジョン 各理念・取組ごとの総括（案）

## 理念4 郷土への愛着心の形成

取組番号／取組名		達成度	必要性	方向性	取組総括
取組の方向性					
4-1	歴史・伝統文化資源の保存・継承	やや高い	やや高い	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の達成度については、文化財資料館、キリシタン遺物史料館において、企画展を通じて文化財の普及啓発事業や地域の文献史料の収集・整理・保存・活用に取り組んでいます。また、埋蔵文化財発掘調査に事業者等の協力も得て取り組むとともに、普及啓発にも努めています。しかし、コロナ禍により、入館者数が減少したことから、「やや高い」と判断する。</li> <li>取組の必要性・方向性については、郷土資料の収集・保存・提供を率先して行うとともに、郷土に関する質問と回答事例をHPで公開する等、情報を発信していくほか、多くの市民に、歴史・伝統文化資源の取組に対する理解を深め、茨木市への愛着を育む必要があるため、必要性は「やや高い」、方向性は「継続」とする。</li> </ul>
<p>茨木市には、銅鑄型やキリシタン遺物などの文化財や、茨木童子など古くからの伝説、浄瑠璃音頭などの民俗芸能など、豊かな歴史・伝統文化資源が豊富に残されています。</p> <p>こうした歴史・伝統文化資源はまちの大きな魅力の一つであり、長い時間を経て積み重ねられてきた、“茨木らしさ”を形成する大切な資源と言えます。</p> <p>先人から引き継いできたこうした資源を今後も大切に保存・継承することで、“茨木らしさ”を大切にす気持ち、茨木市に対する愛着を育みます。</p>					
4-2	川端康成ゆかりの地であることの周知	高い	高い	拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の達成度については、川端康成文学館では万博、国宝、ノーベル賞など、様々なテーマをとりあげて魅力的な展示を開催し、市内外に広く川端康成と茨木市のゆかりを周知するとともに、小学生・中学生を対象とした夏休み企画を広く周知し、川端の生い立ちや業績などに楽しく触れる機会を提供したほか、各小中学校でも子どもたちに川端康成とのゆかりを学べる取組を実施したことから、「高い」と判断する。</li> <li>取組の必要性・方向性については、文学館において魅力的な企画を実施し、市内外に広く川端康成と茨木市のゆかりを周知することで、次世代に川端康成とゆかりの深いまちであることを継承する必要があるため、必要性は「高い」、方向性は「継続」と判断する。</li> </ul>
<p>川端康成と茨木市のゆかりを広く市内外に広めていくとともに、川端康成文学館における小・中学生を対象とした夏休みの企画展やテーマ展示などを通じて、茨木市における文化の特色として周知していきます。</p> <p>市民には、茨木市が川端康成ゆかりの地であることはすでに広く知られており、また、川端作品を読んだことのある市民も7割に上ります。</p> <p>一方、茨木市が川端康成ゆかりの地であることを知らない小・中学生は、その6割強におよび、川端作品を読んだことがある小・中学生は1割に満たない状況です。</p> <p>こうした現状を改善するためにも、学校教育の現場で川端康成の生い立ちなどを学び、作品にふれることにより、次世代に川端康成とゆかりの深いまちであることを継承していきます。</p>					
4-3	姉妹都市等との文化交流	やや高い	やや高い	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の達成度については、茨木市国際親善都市協会が実施するミネアポリス市・安慶市・小豆島町との児童画の交換や、竹田市で実施される書のコンクールへの出品など、文化芸術を通じた交流を継続して実施したほか、市が協会と共催で実施する国際交流の集いでは、地域に住む人々のルーツにある様々な文化を理解する機会を提供しました。しかし、コロナ禍により、直接的な交流が難しくなり、交流回数が減少したことから、「やや高い」と判断する。</li> <li>取組の必要性・方向性については、姉妹都市・友好都市と「書」や「絵画」等の文化的な交流を通じて、改めてふるさと茨木を見直す機会を作っていく必要があるため、必要性は「やや高い」、方向性は「継続」とする。</li> </ul>
<p>茨木市は、平成25年（2013年）11月に大分県竹田市と国内では初の歴史文化姉妹都市の提携を行いました。竹田市とは、茨木城主中川清秀の次男が竹田市の礎となる岡藩城主になったこと、また、キリシタン遺跡が多く残されていること、川端康成の作品の舞台になったことなど、様々な歴史や文化に関する縁があり、これらに因む交流を進めていきます。また、姉妹都市・友好都市関係を結んでいるミネアポリス市（アメリカ・ミネソタ州）、安慶市（中国・安徽省）、小豆島町とも連携し、「書」や「絵画」等の文化的な交流を続けていくことにより、改めてふるさと茨木を見直す機会を作っていきます。</p>					

理念番号／理念名		達成度	必要性	方向性	理念総括
理念					
4	郷土への愛着心の形成	やや高い	やや高い	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>理念の達成度については文化財資料館等で文化財の普及啓発や文献史料の収集等に取り組んでいるほか、川端康成文学館では様々なテーマをとりあげて魅力的な展示を開催しております。また、茨木市国際親善都市協会と姉妹都市等との交流を実施するとともに、国際交流の集いで様々な文化を理解する機会を提供したことから「やや高い」と判断する。</li> <li>理念の必要性・方向性については多くの市民に歴史・伝統文化資源の取組に対する理解を深め、市への愛着を育むほか、川端康成文学館において魅力的な企画を実施し、次世代にゆかりの深いまちであることを継承します。また、姉妹都市等との文化的な交流を通じて、茨木市を見直す機会を作っていく必要があるため、必要性は「やや高い」、方向性は「継続」とする。</li> </ul>
<p>文化は、人と人の間に絆を生み、互いを理解し尊重し合う意識の土壌を作り、人々の生活を豊かにするものです。</p> <p>その中でも、地域に根ざした郷土文化や歴史に親しむことは、市民の茨木に対する誇りや地域への愛着心の形成につながります。また、特色ある郷土文化の存在は、市民の心のよりどころとしても機能します。</p> <p>将来、茨木市に暮らす人々が、今と同じように郷土の文化や歴史にふれることができるよう、地域に点在する歴史資源・文化資源を保存・継承し、“茨木らしい”郷土文化を守り、育て、受け継いでいきます。</p>					



# 文化振興ビジョン 各理念・取組ごとの総括（案）

## 理念5 文化のまちとしてのブランド形成

取組番号／取組名		達成度	必要性	方向性	取組総括
取組の方向性					
5-1	茨木らしさを活かしたブランド形成・発信	やや高い	やや高い	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の達成度については、茨木市がもつ文化資源について各課の取組によって一定の整理ができており、各課がその文化資源を活かし事業を展開できている。映画「葬式の名人」や文学賞を創設し各種媒体を通じて「川端康成が学んだ教育のまち茨木」の持続的なプロモーションを行ってきたほか、ふるさと寄附金事業をとおして、本市のブランドを市外に発信することができたことから、「やや高い」と判断する。</li> <li>取組の必要性については、茨木の特性を活かし市外へ積極的に魅力を発信し交流人口を増やしていくことは、市内の様々な産業の活性化やまちのにぎわいにつながることから、「やや高い」と判断する。</li> <li>取組の方向性については、これまで整理してきた文化資源を活かして引き続き様々な取組を実施していくことで市内外において茨木のイメージの定着を目指すことから「継続」と判断する。</li> </ul>
5-2	文化芸術を活かした誘客によるにぎわい創出				
	<p>茨木市の文化芸術の魅力は、市民だけにとどまらず、市外の方にも伝えることで誘客が期待されます。</p> <p>そこで、茨木市の文化芸術を活用し、市内外の人々が交流できる取組への支援など、これまで以上に魅力的な新たな事業を企画・実施するとともに、茨木市の他の施策との連動により、更なるにぎわいを生み出します。</p> <p>また、すでに茨木童子と狂言を融合させ、茨木の魅力づくりにつなげている取組がありますが、このようにブランド形成・発信で設定されたテーマとも連動した文化芸術の創出を促し、にぎわいづくりにつなげていきます。</p>	やや高い	高い	拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の達成度については、ブックトラベルにおいて茨木童子をテーマにした体験イベントを実施するなど、ブランド形成・発信で設定されたテーマと連動し、茨木音楽祭、麦音やIBA1AB@広場を活用したイベントなど、音楽等の文化芸術を活用したイベントで市内外の多くの人々の交流が生まれたことから「やや高い」と判断する。</li> <li>取組の必要性・方向性については、おにクルの開館によって市民が交流する場が生まれ、これまで以上に多様な施策の連動による魅力的な事業の企画実施が求められることから、必要性は「高い」、方向性「拡充」とする。</li> </ul>

理念番号／理念名		達成度	必要性	方向性	理念総括
理念					
5	文化のまちとしてのブランド形成	やや高い	やや高い	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>理念の達成度については、「川端康成が学んだ教育のまち茨木」の持続的なプロモーションを実施したほか、ふるさと寄附金事業をとおして、本市のブランドを市外に発信しました。また、音楽等の文化芸術を活用したイベントで市内外の多くの人々の交流が生まれたことから「やや高い」と判断します。</li> <li>理念の必要性・方向性については、本市の特性を活かして魅力を発信することが産業の活性化やまちのにぎわいにつながるほか、おにクルの開館によって市民が交流する場が生まれ、これまで以上に多様な施策の連動による魅力的な事業の企画実施が求められることから、必要性は「やや高い」、方向性は「継続」とする。</li> </ul>
	<p>文化のまちとしてのブランドを形成することは、市民のまちに対する誇りや愛着に影響するとともに、市外の人々から茨木市を認知してもらうきっかけにもつながります。</p> <p>茨木市では、これまでに掲げた理念と取組に基づき、本ビジョンを推進することによって、「みんなの“楽しい”が見つかる文化のまち」としてのブランド形成を進めます。</p>				



## 文化振興ビジョンの骨子（案）

### 【現行の文化振興ビジョン】

#### 第1章 文化振興ビジョンの策定に当たって

- 1 はじめに
- 2 文化振興ビジョンの位置付け
- 3 文化振興ビジョンの対象とする「文化芸術」の分野

#### 第2章 茨木市の文化的特性

- 1 市民の活発な文化芸術活動
- 2 豊富な文化資源
- 3 地理的条件

#### 第3章 文化振興に関する茨木市の取組

- 1 多彩な文化芸術イベントの実施
- 2 次世代を担う若者の積極的な育成
- 3 市民文化芸術団体との協働
- 4 文化施設等の整備による活動支援

#### 第4章 文化振興ビジョンの理念とその取組の方向性

- 1 市民との協働による文化のまちづくり
- 2 文化芸術とふれる・感じる・つながる「場づくり」
- 3 未来へ向けた文化芸術の担い手の育成
- 4 郷土への愛着心の形成
- 5 文化のまちとしてのブランド形成

#### 第5章 文化振興（ビジョン）の推進に向けて

- 1 ビジョンの推進に向けた体制
- 2 条例・計画等の策定

### 【改定後の文化振興ビジョン】

#### 第1章 文化振興ビジョンの策定に当たって

- 1 はじめに
- 2 文化振興ビジョンの位置付け
- 3 文化振興ビジョンの対象とする「文化芸術」の分野

#### 第2章 茨木市の文化的特性

- 1 市民の活発な文化芸術活動
- 2 豊富な文化資源
- 3 地理的条件

#### 第3章 文化振興に関する茨木市の取組

- 1 市民との協働による文化のまちづくり
- 2 文化芸術とふれる・感じる・つながる「場づくり」
- 3 未来へ向けた文化芸術の担い手の育成
- 4 郷土への愛着心の形成
- 5 文化のまちとしてのブランド形成

#### 第4章 文化振興ビジョンの理念とその取組の方向性

- 1 文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり
- 2 共創による文化の新たな価値の創造
- 3 色とりどりの文化が息づき、いつも新たな文化が生まれるまちづくり

#### 第5章 文化振興（ビジョン）の推進に向けて

- 1 ビジョンの推進に向けた体制
- 2 条例・計画等の策定



# 理念の改定内容（案）

## 現行の文化振興ビジョンの理念

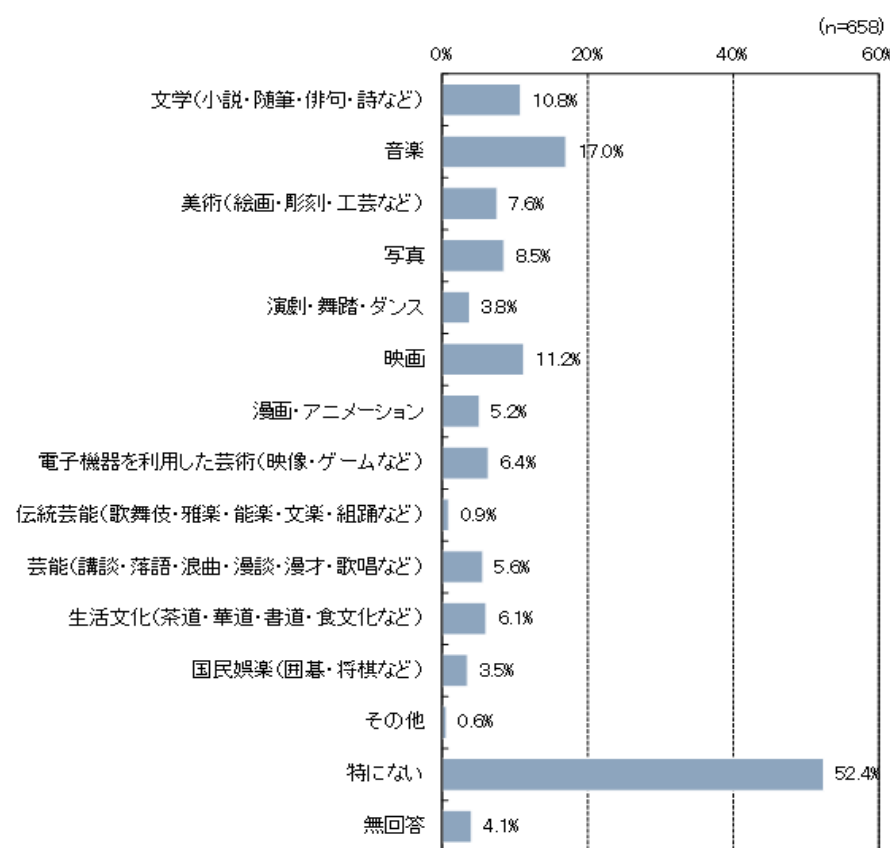
理念	
2	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり
1	市民との協働による文化のまちづくり
5	文化のまちとしてのブランド形成
3	未来へ向けた文化芸術の担い手の育成
4	郷土への愛着心の形成

## 改定後の文化振興ビジョンの理念

理念	新規・統合・継続・廃止・分割		リード文	主な市民意見
	区分	理由等		
1	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり	継続	<p>障害の有無や経済的な状況または国籍の違いを問わず、多様性・自主性を尊重しながら、すべての市民が文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくりを積極的に進めていきます。</p> <p>ハード面では、文化芸術活動の新たな拠点となるおにクルを中心として、まちのさまざまな「場」の中で文化芸術と出会えるような、文化のまちづくり、をすすめていきます。</p> <p>ソフト面では、これまであまり馴染みのなかった人が文化芸術と出会うきっかけとなるような取り組みや、関心はあってもなかなか自分で取り組むことのできない人も含めて、気軽に文化芸術活動を始められる機会を創出することにより、たくさんの市民が文化芸術活動に参加できるよう促します。</p>	<p>【アンケート①】「最近1年間で実践した文化芸術」で特にない、が52.4%</p> <p>【子育て世代WS】平日の集まりだけでなく、土日のイベントや利用できるサービスを増やしてほしい</p>
2	共創による文化の新たな価値の創造・発信	統合	<p>いつでもだれでも自らの可能性や創造性を試し成長することができるまちを目指し、その活動の支援に取り組みます。</p> <p>また、活動をおこなう人と人、人と文化が交流し、関わり合う機会が生まれる仕組みづくりを推進することで、様々な活動同士の結びつきが生まれ、新しい可能性につながるまちを目指します。</p> <p>市民が自由に自らの可能性や創造性を発揮し、互いに共感しあい、その活動同士が組み合わせることで新しい価値を持つ文化が生まれ、それを積極的に発信していきます。その取組を続けていくことで、徐々にそれが新たな茨木市の特色として確立し、市内の人々の中で定着していく。そんな「文化のまち」づくりを目指します。</p>	<p>【アンケート②】「文化芸術が連携することを希望する分野」で観光、まちづくり、教育が上位</p> <p>【追手門学院大学WS】まちづくりなど他分野との連携を期待。・多くの人が共通して”つながり”や”つないでいくこと”をテーマにしていた。</p> <p>【子育て世代WS】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット、SNSや、アプリを活用するなど、発信をわかりして欲しい</li> </ul>
3	色とりどりの文化が息づき、いつも新たな文化が生まれるまちづくり	統合	<p>活発な活動により、絶えず新しい文化が生まれる環境を促進し、その上でこれまでの茨木市が育んだ文化を継承し、未来へつないでいくことで、まちの中で色とりどりの文化が根づくまちを目指します。</p> <p>その中で次世代を担う子どもたちが日常の中で文化芸術に触れる機会を充実させ、またアーティストが活発に活動し、発表できる機会を積極的に創出していくことで、未来の担い手となりうる人の共感を呼び、一人一人が文化芸術とかかわりを持つきっかけとなる可能性につなげます。</p>	<p>【アンケート③】「学校の授業や行事でやってみたい活動」で鑑賞や創作活動の希望が過半数、作家とのコミュニケーション希望も上位</p> <p>【アンケート④】「川端康成ゆかりの地であることの認知度」が90.7%（前回：88.2%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・茨木にゆかりのある作家さんの子ども向けのワークショップの開催</li> </ul> <p>【茨木高校WS】文化資源である川端康成を学生や若者の目に触れる機会を作ってほしい</p>

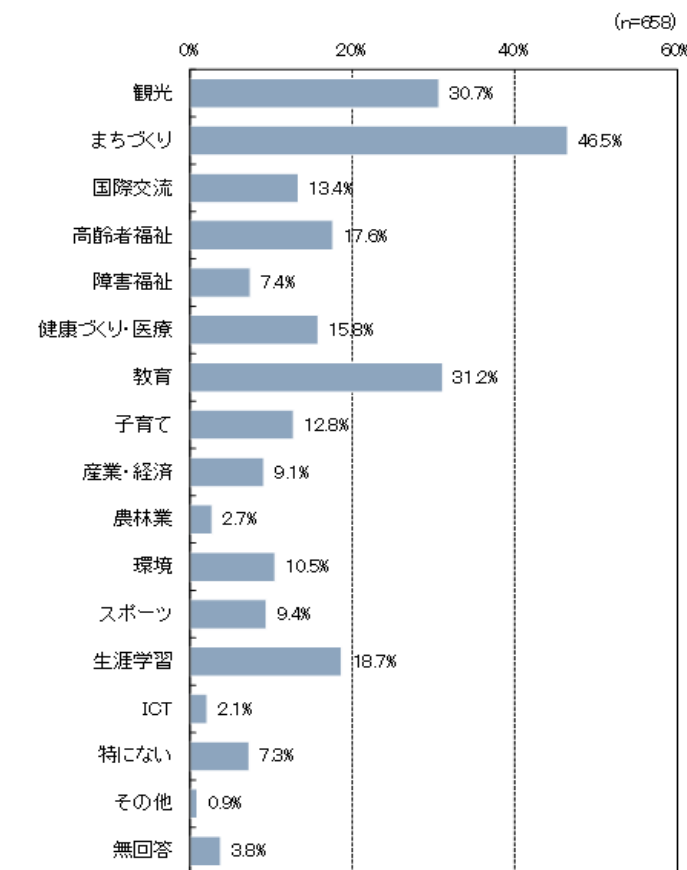
【アンケート①】

図表 I-38 最近1年間で実践した文化芸術(複数回答)



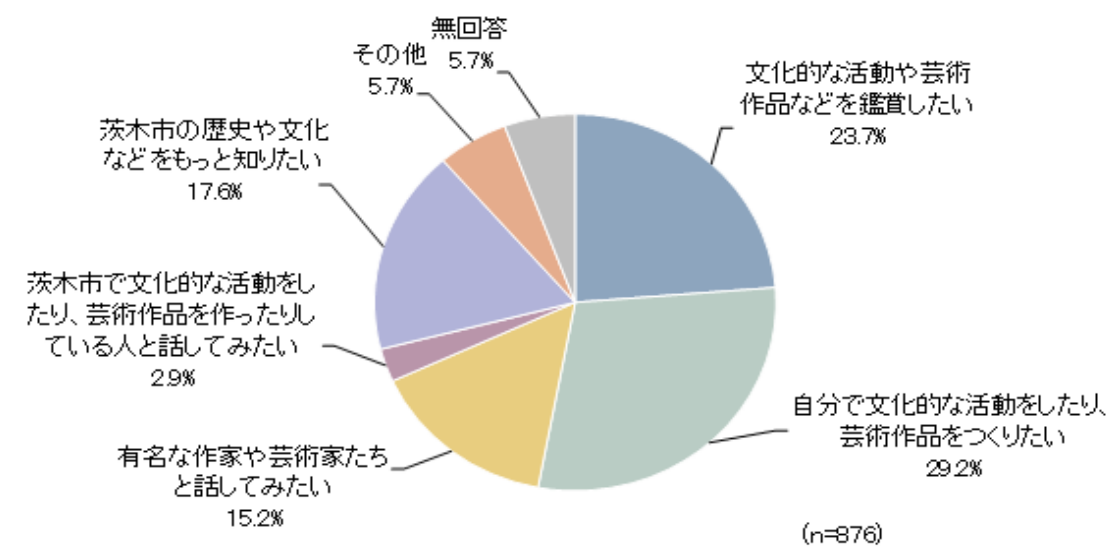
【アンケート②】

図表 I-64 文化芸術が連携することを希望する分野(複数回答)



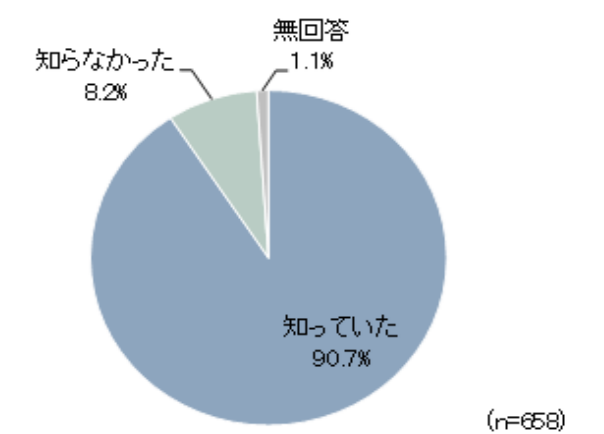
【アンケート③】

図表 II-9 学校の授業や行事でやってみたい活動



【アンケート④】

図表 I-65 川端康成氏のゆかりの地であることの認知度





# 取組の改定内容（案）

現行の文化振興ビジョンの取組の方向性

理念2	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり
取組の方向性	
2-1	誰もが文化芸術とつながる環境づくり
2-2	いつでも・どこでも文化芸術にふれられる環境づくり

改定後の文化振興ビジョンの取組の方向性

理念1	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり	新規・統合・継続・廃止・分割	
取組番号	取組の方向性	区分	理由等
新	旧		
1-1	2-1	分割	文化芸術のソフト事業が大半がこの取組に含まれており、細分化して取組の方向性を示すため、3つの取組に分割
1-2	2-1	分割	2-1 高齢者・子育て世代・障害者・外国人などを対象とした取組 2-2 これまで文化芸術に接してこなかった方への機会・きっかけづくりの取組
1-3	2-1	分割	2-3 市内外の芸術家を招くなど、市民の鑑賞・体験の場を提供する取組
1-4	2-2	継続	「いつでも・どこでも」が上記2-2の取組のきっかけづくりと重なるため、名称から削除

理念1	市民との協働による文化のまちづくり
1-1	市民の自発的な文化芸術活動に対する支援
1-2	市民と文化芸術をつなぐ人材の育成
1-3	市内文化芸術団体間の連携の強化
1-4	産学官の連携による文化芸術活動の活性化

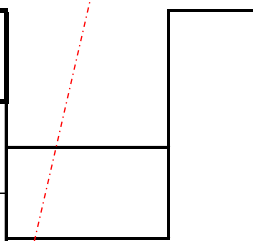
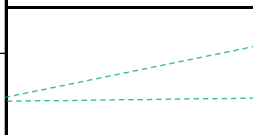
理念2	共創による文化の新たな価値の創造・発信	新規・統合・継続・廃止・分割	
取組番号	取組の方向性	区分	理由等
新	旧		
2-1	1-1 1-2	継続	文化芸術における協働推進の核となる人材発掘を追加
2-2	1-2 4-3	統合	文化芸術における協働推進の核となる人材の育成と姉妹都市等郷土への愛着心から交流としての視点で整理
2-3	1-3 1-4 5-1 5-2	統合	おにクルが人と人、人と活動、人と文化をつなぐことによる文化芸術における新たな価値の創造の場を目指すとともに、創造した新たな価値を発信し、市内外から茨木市を認知してもらうことを1つの取組として統合

理念5	文化のまちとしてのブランド形成
5-1	茨木らしさを活かしたブランド形成・発信
5-2	文化芸術を活かした誘客によるにぎわい創出

理念3	未来へ向けた文化芸術の担い手の育成
3-1	文化芸術の教育現場における活用
3-2	文化芸術の担い手の育成

理念3	色とりどりの文化が息づき、いつも新たな文化が生まれるまちづくり	新規・統合・継続・廃止・分割	
取組番号	取組の方向性	区分	理由等
新	旧		
3-1	3-1	継続	教育現場のみならず、子どもたちが文化芸術に接する機会を含んだ内容にするため、名称変更
3-2	3-2	継続	
3-3	4-1 4-2	統合	市民のまちに対する誇り・愛着心の形成について1つの取組に統合し、未来へ繋いでいく内容とするため

理念4	郷土への愛着心の形成
4-1	歴史・伝統文化資源の保存・継承
4-2	川端康成ゆかりの地であることの周知
4-3	姉妹都市等との文化交流





取組の改定内容（案） 改定後の理念1 文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり

現行の文化振興ビジョンの取組の方向性

理念2	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり
取組の方向性	
2-1	誰もが文化芸術とつながる環境づくり
2-2	いつでも・どこでも文化芸術にふれられる環境づくり

改定後の文化振興ビジョンの取組の方向性

理念1	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり		
取組番号	新	旧	取組の方向性
1-1	1-1	2-1	誰もが文化芸術とつながる環境づくり
1-2	1-2	2-1	気軽に文化芸術活動に参加できる機会・きっかけづくり
1-3	1-3	2-1	新たな文化芸術と出会うまちづくり
1-4	1-4	2-2	文化芸術にふれられる環境づくり

新規・統合・継続・廃止・分割

区分 理由等

分割	文化芸術のソフト事業の多くがこの取組に含まれており、細分化して取組の方向性を示すため、3つの取組に分割
分割	2-1 高齢者・子育て世代・障害者・外国人などを対象とした取組 2-2 これまで文化芸術に接してこなかった方への機会・きっかけづくりの取組 2-3 市内外の芸術家を招くなど、市民の鑑賞・体験の場を提供する取組
分割	
継続	【名称変更】 いつでも・どこでもが上記2-2の取組のきっかけづくりと重なるため

主な取り組み内容

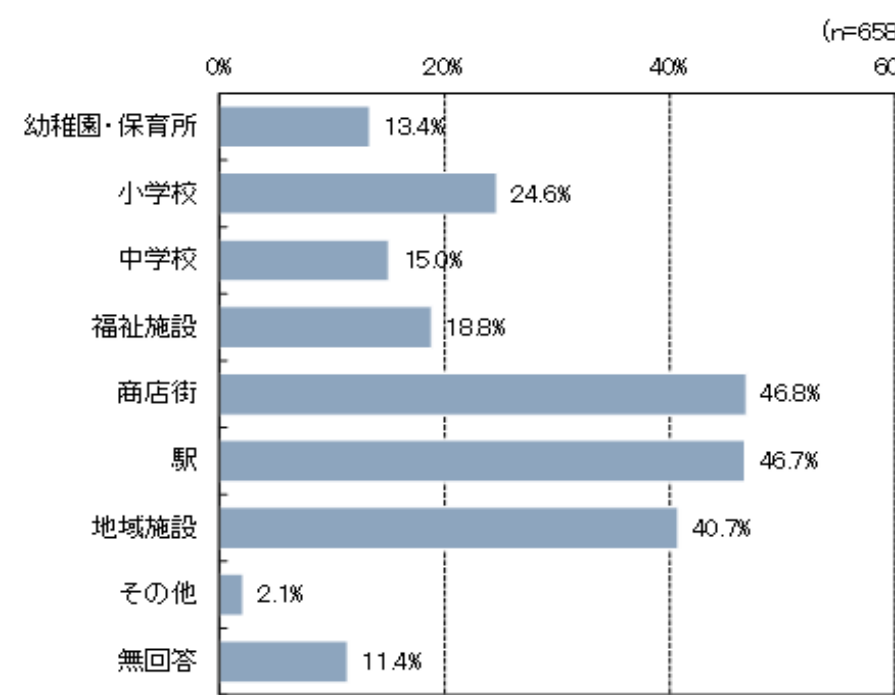
<ul style="list-style-type: none"> <li>「年齢、障害の有無又は経済的な状況」にかかわらず、等しく文化芸術の鑑賞等ができる環境の整備（文化芸術基本法の改正反映）</li> <li>障害の有無にかかわらず、文化芸術を鑑賞・参加・創造することが出来るよう、障害者による文化芸術活動を幅広く推進（障害者による文化芸術活動の推進に関する法律制定反映）</li> <li>異なるルーツを持つ外国人にも文化芸術を通じて通じ合うことが出来るような環境づくり</li> <li>【新】人権・男女共生課多文化共生支援事業</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで文化芸術との関係が希薄だった市民が、自然と文化芸術に触れるきっかけとなるような機会や場所の充実</li> <li>文化芸術活動を行ったことのない人が、気軽に活動に参加することのできる機会の創出</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>普段あまり目にする機会のない分野を含め、様々な文化芸術を鑑賞できるような事業の実施</li> <li>市内外問わず最前線で活躍する芸術家を招き、市民により良い芸術鑑賞の機会の創出</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>新施設の文化的活用について整備</li> <li>市立ギャラリーの活用方法について検討</li> <li>市内公共施設での文化芸術活動の環境の整備</li> </ul>

主な市民意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>【子育て世代WS】「子ども預かりサービスの充実」によって子育てしている母親父親の参加をサポートする</li> <li>【福井高校WS】ルーツのある国のドラマや映画を普段から鑑賞している。ルーツのある国の料理を作ることが多い</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>【アンケート①】「どのような場所を舞台にした文化芸術の取組を期待するか」で商店街、駅、地域施設が上位</li> <li>【アンケート②】「最近1年間で実践した文化芸術」で特になし、が52.4%</li> <li>【子育て世代WS】平日の集まりだけでなく、土日のイベントや利用できるサービスを増やしてほしい</li> <li>【追手門学院大学WS】市外に住んでいるため、茨木の文化にほとんど触れられることがなく、「通学」はしているけれど、市内での文化との接触が少ない</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>【アンケート③】「文化芸術を鑑賞する際に課題や問題を感じる点」魅力的な催し物、イベントが少ないが52.9%</li> <li>【アンケート④】「今後茨木市において希望されるイベント」で演奏会や、展覧会の希望が上位</li> <li>【アンケート⑤】「文化芸術の実践にあたって、最もよく出かける地域」で茨木市の割合が20.1%に減少（前回：22.8%）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>【アンケート⑥】「文化芸術を鑑賞する際に課題や問題を感じる点」で利用したい施設が少ないが46.4%</li> <li>【アンケート⑦】「文化芸術鑑賞で利用したことのある施設」で福祉文化会館ホール、市民総合センターホールの利用が3割超</li> </ul>

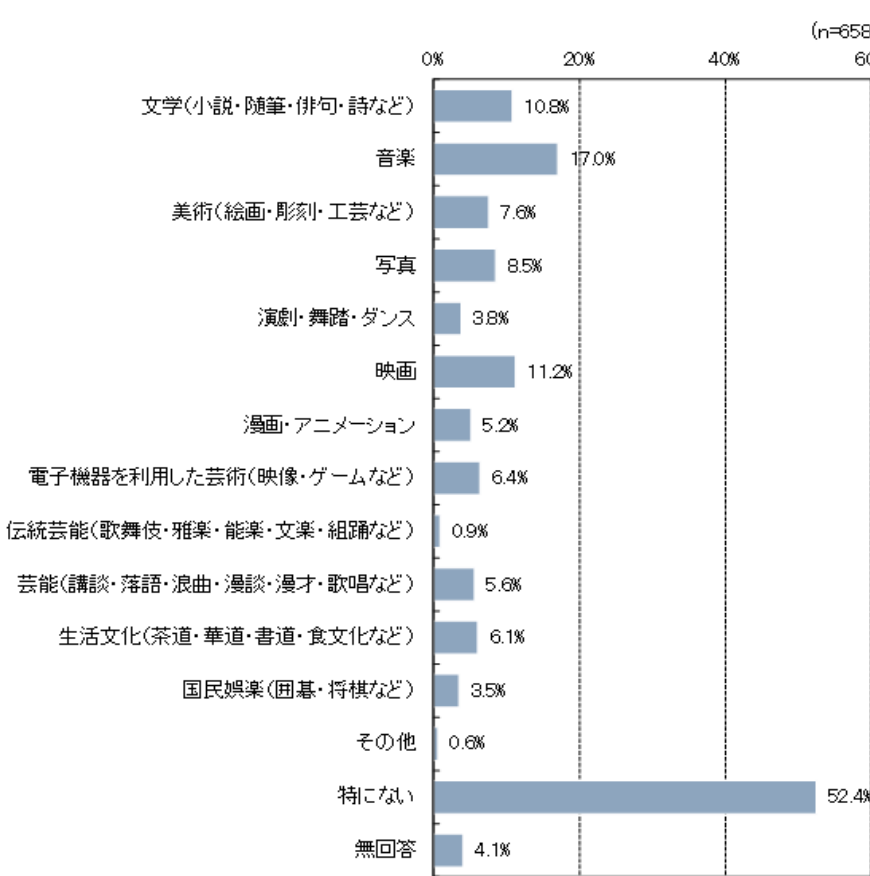
【アンケート①】

図表 I-73 どのような場所を舞台にした文化芸術の取組を期待するか(複数回答)



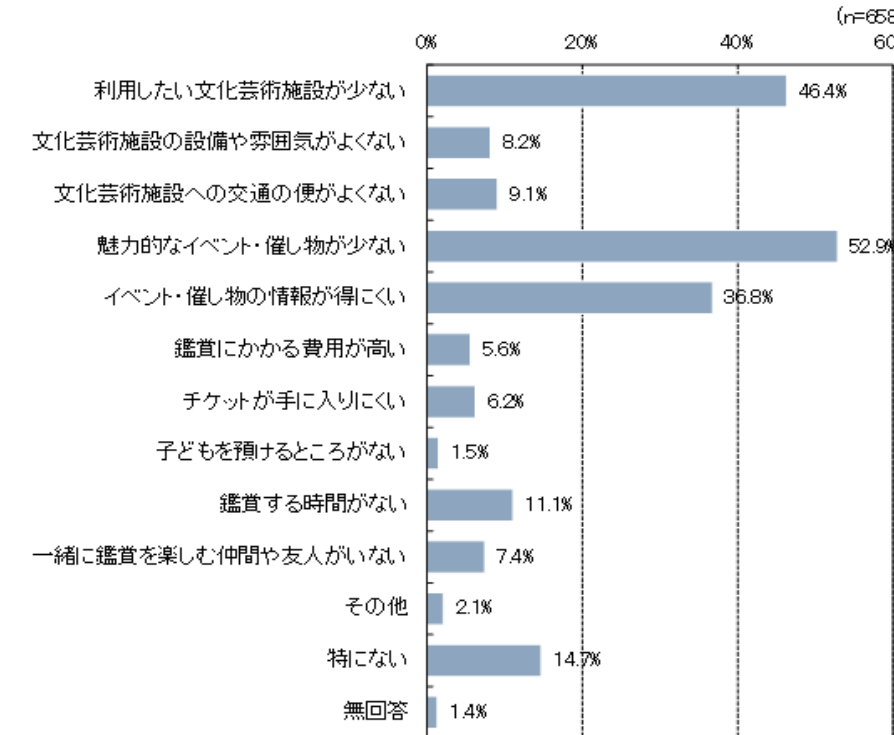
【アンケート②】

図表 I-33 最近1年間で実践した文化芸術(複数回答)



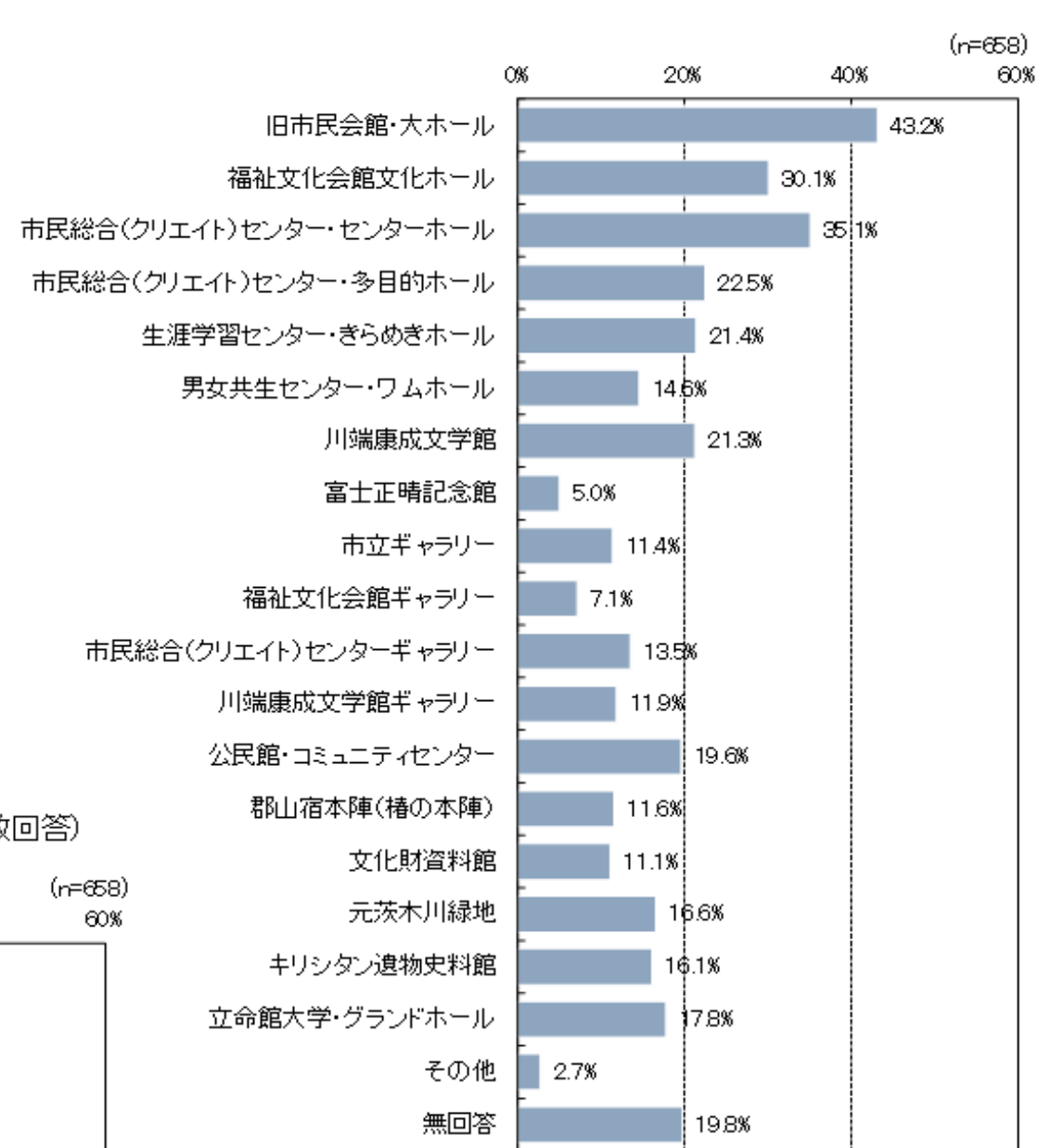
【アンケート③】

図表 I-31 文化芸術を鑑賞する際に課題や問題を感じる点(複数回答)



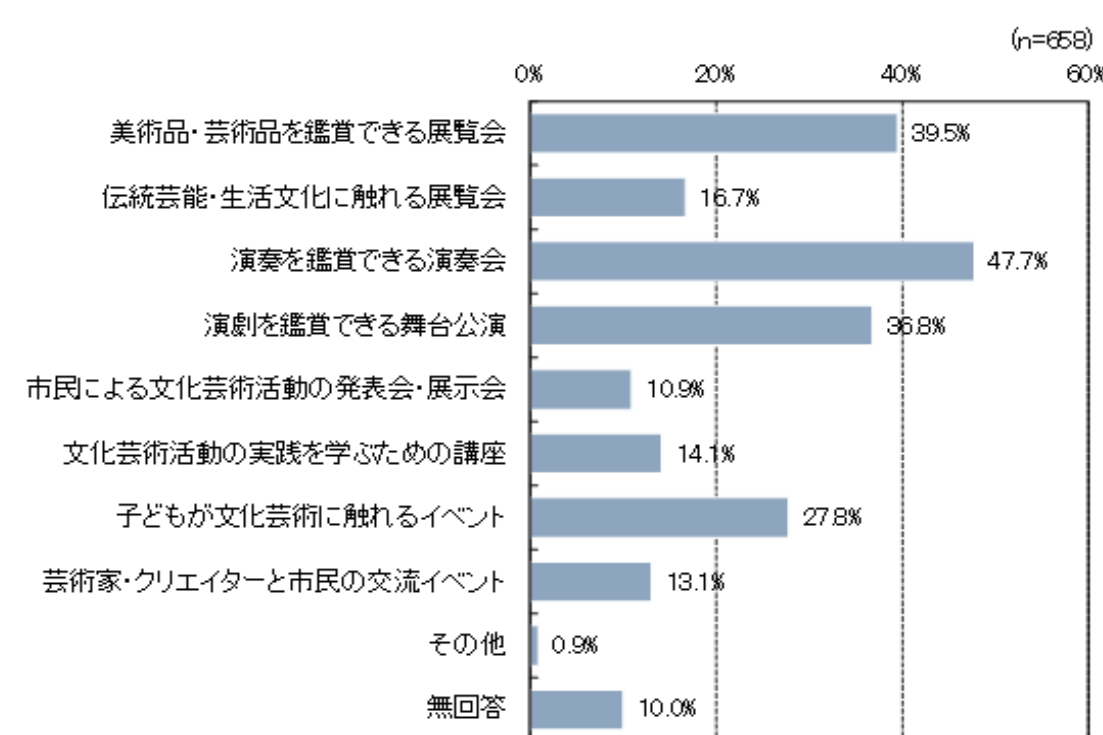
【アンケート⑦】

図表 I-34 文化芸術鑑賞で利用したことのある茨木市施設(複数回答)



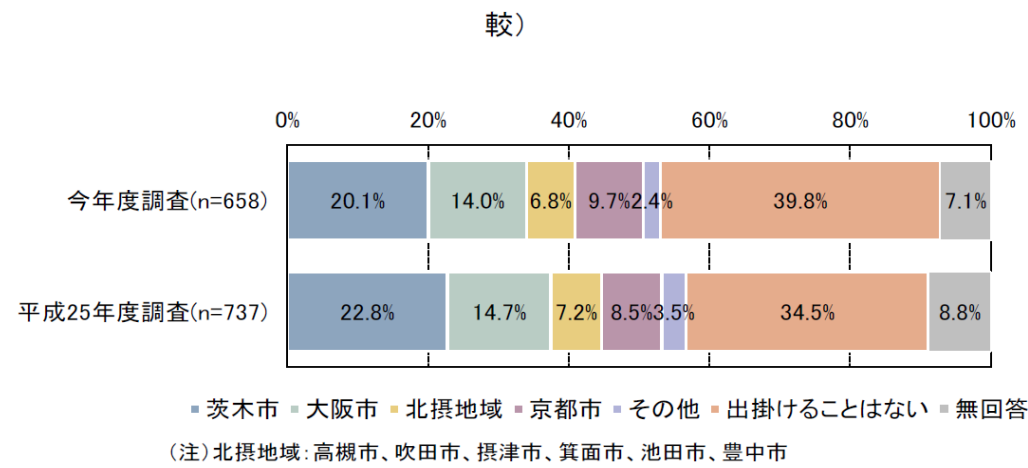
【アンケート④】

図表 I-61 今後、茨木市において希望されるイベント(複数回答)



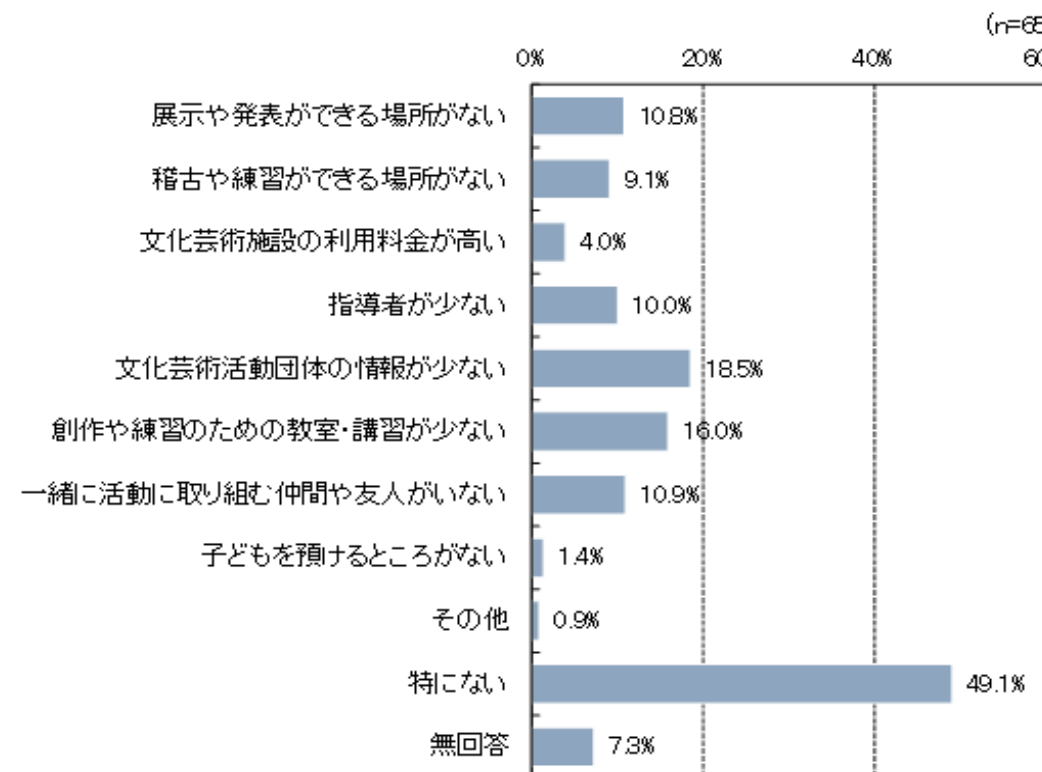
【アンケート⑤】

図表 I-48 文化芸術の実践にあたって、最もよく出かける地域(平成25年度調査との比較)



【アンケート⑥】

図表 I-49 文化芸術を実践する際に課題や問題を感じる点(複数回答)





取組の改定内容（案） 改定後の理念2 共創による文化の新たな価値の創造

現行の文化振興ビジョンの取組の方向性

理念1	市民との協働による文化のまちづくり
取組の方向性	
1-1	市民の自発的な文化芸術活動に対する支援
1-2	市民と文化芸術をつなぐ人材の育成
1-3	市内文化芸術団体間の連携の強化
1-4	産学官の連携による文化芸術活動の活性化

理念5	文化のまちとしてのブランド形成
5-1	茨木らしさを活かしたブランド形成・発信
5-2	文化芸術を活かした誘客によるにぎわい創出

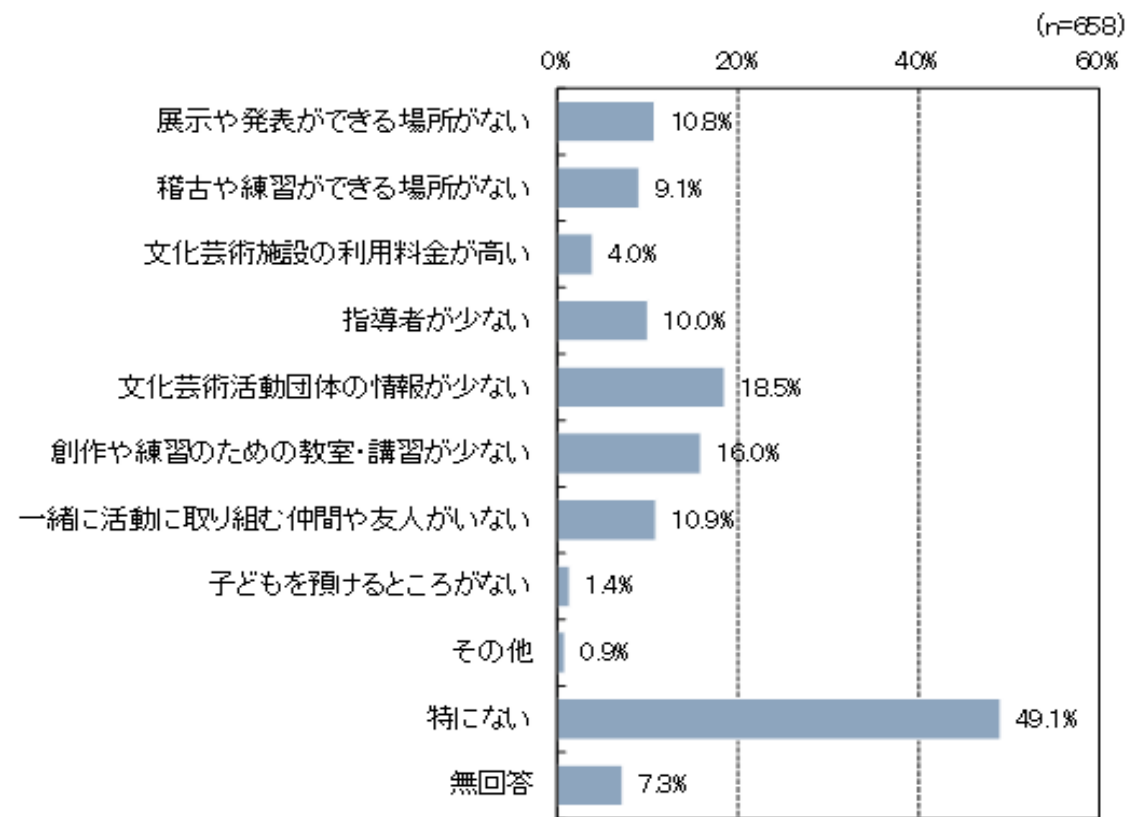
理念4	郷土への愛着心の形成
4-3	姉妹都市等との文化交流

改定後の文化振興ビジョンの取組の方向性

理念2	共創による文化の新たな価値の創造・発信		
取組番号	取組の方向性	新規・統合・継続・廃止・分割	
新		区分	
旧		理由等	
2-1	1-1 1-2 市民の自発的な文化芸術活動に対する支援	継続	文化芸術における協働推進の核となる人材発掘を追加
2-2	1-2 4-3 文化芸術を通じた交流	統合	文化芸術における協働推進の核となる人材の育成と姉妹都市等郷土への愛着心から交流としての視点で整理
2-3	1-3 1-4 5-1 5-2 連携による新たな価値の創造・発信	統合	【統合理由】 おにクルが人と人、人と活動、人と文化をつなぐことによる文化芸術における新たな価値の創造の場を目指すとともに、創造した新たな価値を発信し、市内外から茨木市を認知してもらうことを1つの取組として統合
		主な取り組み内容	主な市民意見
		<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術活動補助金の支給</li> <li>文化芸術事業実施に関する助言やサポート</li> <li>小学校区公民館講座等実施事業</li> <li>【新】産業活性化プロジェクト促進事業補助制度</li> </ul>	【アンケート①】「文化芸術を実践する際に課題や問題を感じる点」で、文化芸術が少ないが18.5%、一緒に取り組む仲間や友人が少ないが10.9%
		<ul style="list-style-type: none"> <li>【新】市民会議の拡充</li> <li>文化振興財団を中心とした文化芸術団体の連携の活発化</li> <li>市民会館跡地エリア整備事業</li> <li>文化芸術を活用した交流の推進</li> <li>姉妹都市等との文化的交流</li> </ul>	【アンケート②】「文化芸術が連携することを希望する分野」で観光、まちづくり、教育が上位
		<ul style="list-style-type: none"> <li>【統合理由】おにクルが人と人、人と活動、人と文化をつなぐことによる文化芸術における新たな価値の創造の場を目指すとともに、創造した新たな価値を発信し、市内外から茨木市を認知してもらうことを1つの取組として統合</li> <li>【新】観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業などの各関連分野における施策との有機的な連携（文化芸術基本法改正反映）</li> <li>社会包摂事業</li> <li>大学をはじめとした教育機関との文化芸術活動に関する事業等連携</li> <li>事業者の文化芸術活動への参加促進</li> <li>【新】ネーミングライツや企業名を入れた事業展開</li> <li>茨木童子等、知名度の高い伝説等を活かした市のブランド発信</li> </ul>	【子育て世代WS】 ・インターネット、SNSや、アプリを活用するなど、発信をわかりして欲しい 【茨木高校WS】 ・茨木市はまだまだ発展できるし、もっと隠れた魅力を発信すべきだと思った。

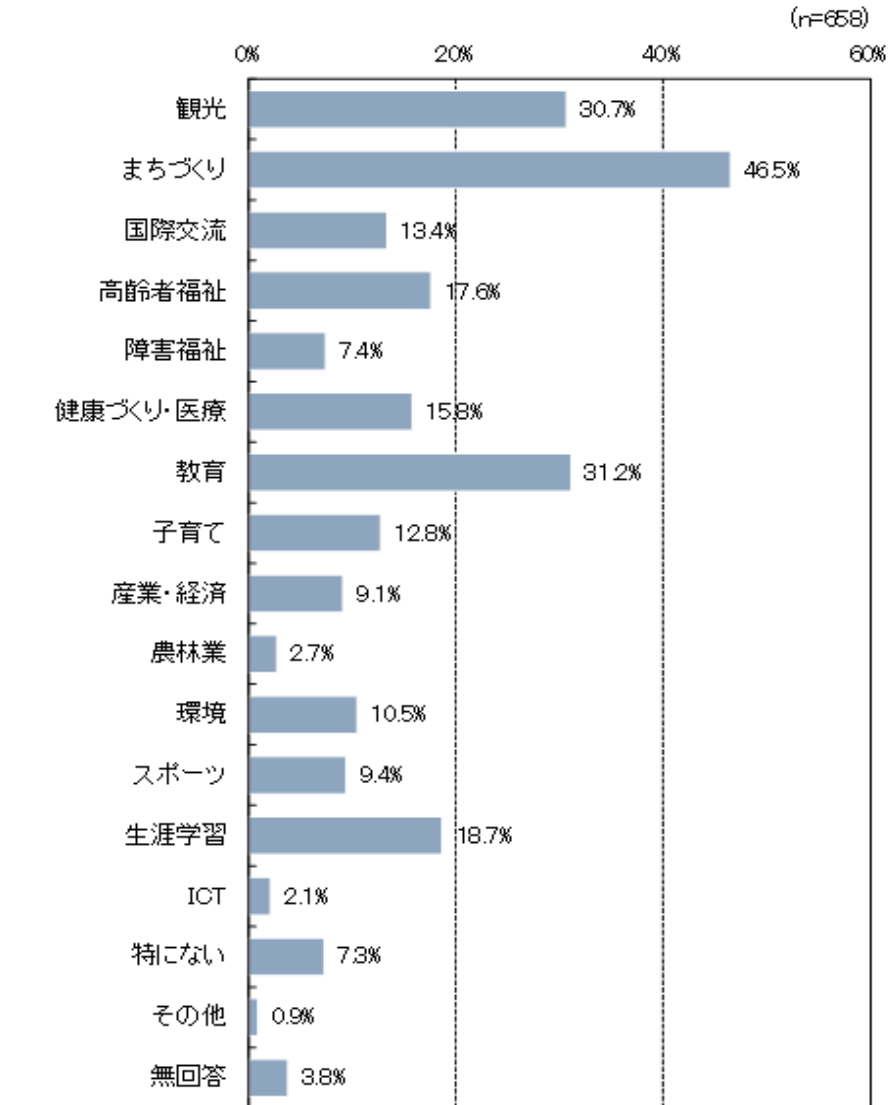
【アンケート①】

図表 I-49 文化芸術を実践する際に課題や問題を感じる点(複数回答) (n=658)



【アンケート②】

図表 I-64 文化芸術が連携することを希望する分野(複数回答) (n=658)





取組の改定内容（案） 改定後の理念3 色とりどりの文化が息づき、いつも新たな文化が生まれるまちづくり

現行の文化振興ビジョンの取組の方向性

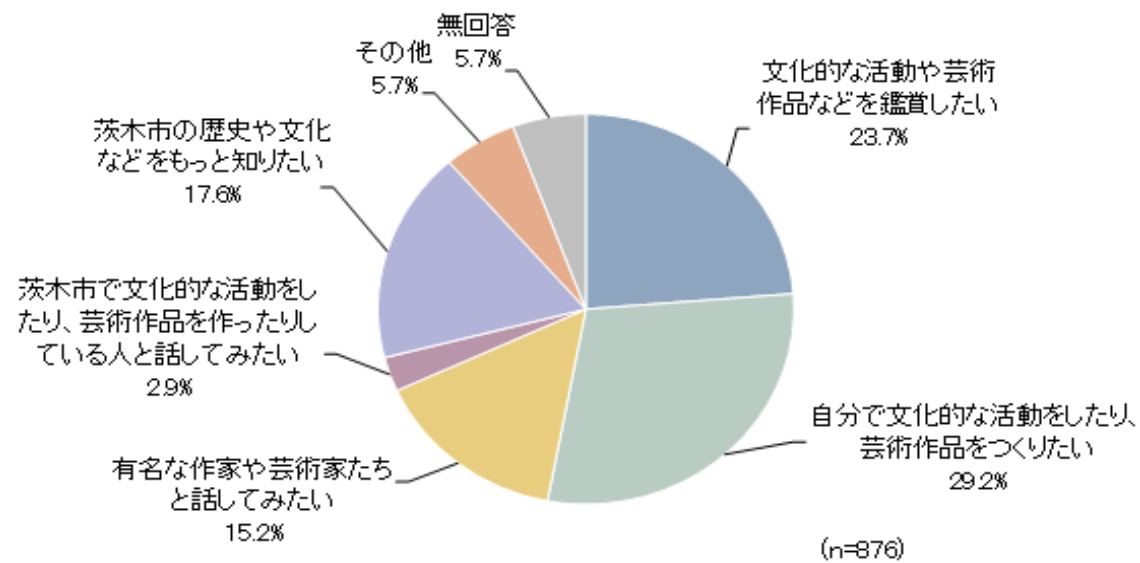
理念3	未来へ向けた文化芸術の担い手の育成
取組の方向性	
3-1	文化芸術の教育現場における活用
3-2	文化芸術の担い手の育成
理念4	郷土への愛着心の形成
4-1	歴史・伝統文化資源の保存・継承
4-2	川端康成ゆかりの地であることの周知

改定後の文化振興ビジョンの取組の方向性

理念3	色とりどりの文化が息づき、いつも新たな文化が生まれるまちづくり		新規・統合・継続・廃止・分割		主な取り組み内容	主な市民意見
取組番号	取組の方向性	区分	理由等			
3-1	3-1	子どもたちが文化芸術にふれる機会の充実	継続	【名称変更】 教育現場のみならず、子どもたちが文化芸術に接する機会を含んだ内容にするため	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒等に対する文化芸術に関する教育（文化芸術基本法改正反映）</li> <li>・子どもへの文化施策や教育現場での文化事業</li> <li>・子どもの文化芸術活動の機会創出</li> </ul>	【アンケート①】「学校の授業や行事でやってみたい活動」で鑑賞や創作活動の希望が過半数、作家とのコミュニケーション希望も上位
3-2	3-2	文化芸術の担い手の育成	継続		<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手芸術家の発表機会の充実</li> <li>・若手芸術家の文化芸術活動の支援</li> </ul>	
3-3	4-1 4-2	まちの文化資源の保存・継承・活用	統合	【統合理由】 市民のまちに対する誇り・愛着心の形成について1つの取組に統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川端康成をはじめとしたゆかりのアーティストの周知事業</li> </ul>	【アンケート②】「銅鑄型の認知度」が20%にとどまる 【アンケート③】「川端康成ゆかりの地であることの認知度」が90.7%（前回：88.2%） 【子育て世代WS】 ・茨木にゆかりのある作家さんの子ども向けのワークショップの開催 【茨木高校WS】 ・文化資源である川端康成を学生や若者の目に触れる機会を作ってほしい ・文化資源を活用するにはまずそれを知って理解することが大切

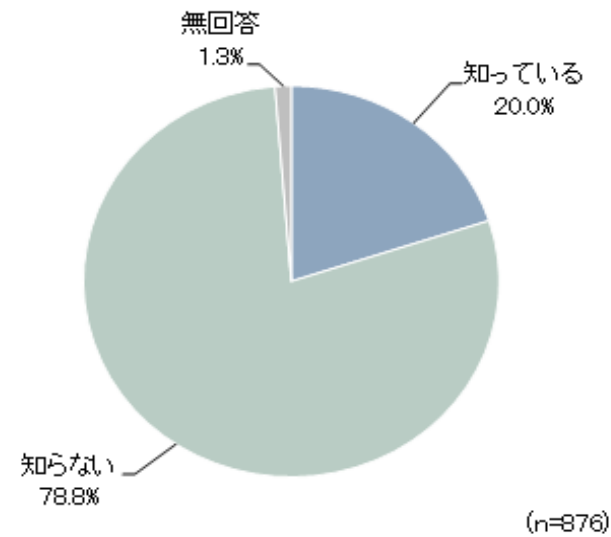
【アンケート①】

図表II-9 学校の授業や行事でやってみたい活動



【アンケート②】

図表II-14 銅鑄型の認知度



【アンケート③】

図表I-65 川端康成氏のゆかりの地であることの認知度

